

6. アンケート地区別分析項目

6-7.大和 地区親の会 会員アンケート結果分析項目

TU130121

①アンケート回収状況(アンケート属性、件数データ集計結果)

1)回収率

回答件数	40 件
総発行数	40 件
回収率	100.0 %

年齢構成

年齢	人数	男	女
5	1	1	
7	3	1	2
9	3	3	
10	2	1	1
11	1	1	
12	4	4	
14	3	2	1
15	3	2	1
16	8	6	2
17	4	3	1
18	2	1	1
19	2	1	1
20	1	1	
21	1	1	
23	1	1	
24	1		1
30	0		
34	0		
35	0		
合計	40	29	11

2) 日中活動の場

	件数
20 小中学校	3 名
21 通常級	3 名
22 特別支援学級	11 名
23 特別支援/養護学校	2 名
30 高等学校	4 名
31 全日制高校	1 名
32 専修校	1 名
35 特別支援/養護学校	7 名
51 通所福祉施設	2 名
63 福祉工場	1 名
72 その他	5 名
合計	40 名

3) 障害者手帳の状況

療育手帳 A1	3 名
A2	4 名
B1	4 名
B2	10 名
B3	1 (神奈川判定B2)
精神 2級	0 名
精神 3級	2 名
無し	16 名
合計	40 名

4) 記入者

1 本人	0 名
2 家族	40 名
合計	40 名

5) 住んでいる所

1 自宅	40 名
3 GH	0 名
4 入所	0 名
合計	40 名

2 総回答件数状況

1) NO 質問項目	○良かった事	●困った事	20 望む事	30:合理的配慮	合計件数	%
NO1 療育・教育	5	22	6	1	34	31.5
NO2 障害児支援	8	6	2	1	17	15.7
NO3-1 働く(一般就労)	0	1	1	1	3	2.8
NO3-2 働く(福祉就労)	3	1	1	1	6	5.6
No4 医療	8	3	1	1	13	12.0
NO50 警察や交番・司法	0	2	1	1	4	3.7
NO6-1 生活支援(店舗等)	3	3	1	1	8	7.4
NO6-2 生活支援(公共交通機関)	1	2	1	0	4	3.7
NO6-3 生活支援(消費生活等)	3	4	1	1	9	8.3
NO7 生活(住まい)	2	2	1	0	5	4.6
NO8 救急・消防・災害	0	1	0	1	2	1.9
NO9 政治参加	0	0	0	0	0	0.0
NO10 社会参加	1	2	0	0	3	2.8
合計	34	49	16	9	108	100

検算 108

2) 自由記入

NO 質問項目	件数
10 困った事	0
20 助かった事、親切だった事	1
30 アンケートへの感想、意見	0
40 会への要望、意見	0
50 その他	0
合計	1

②生活シーンNO項目別回答コメントの分析概要報告(大和)

NO1 療育・教育

- ・市の幼児健診、相談システムが整備されているため、就学前の相談、療育への問題指摘が少ないが、早期発見の後の療育の機会のボリュームが足りず、療育の必要性を理解した親子だけが療育機関に通い、療育手帳を持ちながら、療育機関とかかわりを持たない(持てない?)家族も多いと聞いている。
- ・就学相談以降、保育家庭課の相談システムから市教委のシステムに移った途端、親子とも困り果てている。
保育家庭課→市教委、幼稚園保育園→学校、小中学校間、学年間、教師間、親はことあるごとに情報提供しているのだが、支援のための情報が伝達されない。
- ・発達障害に関する知識は浸透してきているが、適切な理解と支援が行われていると感じられない。
- ・普通級で良い運営ができる先生は、自閉症のこどもにも、必要な支援を組み立てることができる。
ここ数年、タイプの違うこどもが、急激に増えている支援級の運営にこそ力のある教師が必要なはずだが、そうはなっていないようだ。

NO2 障害児支援

- ・家族のレスパイト、本人の余暇を必要としている人が多く(放課後等デイサービスなど)、量は足りていない。
- ・支援の質は事業所によって様々である。
- ・スイミング、塾、学童保育、スポーツクラブ、等、配慮してもらい参加している場合もある。
- ・アンケートに記述がないが、市内には児童が利用できるショートステイがないと聞いている。

NO3-1 働く(会社などの一般就労)

- ・適切な支援を提供してくれ、気持ちよく働ける環境を作り、仕事にみあった賃金を支払ってくれる職場で働きたい。

NO3-2 働く(福祉的就労・施設・作業所など)

- ・支援の質は事業所によって様々である。
- ・親が年をとり送迎ができなくなっても利用できるようになってほしい。
- ・特性にあった支援があれば、取り組める仕事がふえるのではないかな?

NO4 医療

- ・理解、支援の質は医療機関によって様々である。
- ・親の説明を聞き、理解し対応してくれるところもある。
- ・親の会の仲間に問い合わせしてから受診するのも賢明なようだ。

NO5 警察、交番、司法

- ・職務質問で質問者の問いかけが誘導的だと、質問者の希望通りの答えを簡単に答えてしまう。
- ・被害にあいやすい、と説明すると理解が得やすい、と聞いたことがある。

NO6 生活支援

- ・家の外では、時間、環境変化の見通しがたらず、不安定になる要素が多い。
必要なサポートを考えて、準備するのが有効である。
具体的にサポートの内容を提案できれば、外部の支援を受けやすい。

NO7 住まい

- ・GH/CHが圧倒的に人気があるが、入居できる人に条件があると感じる。
- ・近所に申し訳ない、気になる、気にかけてくれる。

NO8 救急

- ・急なときほど、いつもの支援を使いたい。(医療ボードなど)
- ・近所に申し訳ない、気になる、気にかけてくれる。

全体 ・理解を得る、支援を組み立てる、見通しをたてる、がどんな場面でも必要になる。